

平成27年3月16日

平成24年度文部科学省

「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」事業

参加型臨床実習のための系統的教育の構築 (臨床実習GP事業)

平成26年度臨床実習GP事業の活動概要

東京慈恵会医科大学

事業責任者・教授 宇都宮 一典

1

事業の概要

参加型臨床実習では、指導医の下で学生が主体的に診療に従事することが学習課題となる。この学習を行うためには、臨床という「職場」で学生が自らの能力を見極め、学習課題を設定し、それを学びとる能力を持っていなければならない。本取組ではカリキュラム全体を見直し、

- ①低学年(1年次から3年次)からの学外実習施設の患者接触プログラム(6週間)で「職場の中で学ぶ」力を養成し、
- ②4年次の全科見学型臨床実習(28週間)とキャンパスでの集合教育との組み合わせで診療の現場で求められる知識・技能・態度を「文脈の中での学習」として行い、
- ③5年次からの4週間1診療科の参加型臨床実習(40週間)のなかで実際の診療に従事する「チーム医療への参画」を通して臨床能力を養う系統的なカリキュラムを構築する。

カリキュラム完成時には74週の臨床実習を実施することとなる。また、参加型臨床実習での学習の場を分院、地域の教育病院にも広げる。

2

グローバルな医学教育認証に対する対応

- ・到達指針に基づいたカリキュラムの策定と評価体制を構築する。
- ・低学年から患者接触プログラムを積極的に取り入れ、早くから患者ならびに社会貢献の意識を身に着ける。
- ・講義時間を短縮し、臨床実習とともに集合教育を取り入れ、効果的な自己主導型の学習態度を育成する。
- ・これらを基に、診療参加型臨床実習を目指した系統的な臨床実習体制を構築する。

3

臨床実習GP事業実施計画

年度	主な取組
24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの検討 ・臨床実習ログブックの企画 ・英国キングス大学との連携 ・学生用院内PHSの配付 ・臨床実習での学習記録データベース化の検討
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改訂の骨子を検討 ・臨床実習ログブックの作成 ・英国キングス大学OSCE責任者の招聘 ・教育病院群の開拓 ・見学型臨床実習および参加型臨床実習の学習記録データの策定
26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改訂 ・臨床実習ログブックのトライアルを全診療科で実施 ・英国キングス大学final OSCEの視察 ・屋根瓦方式教育スキルアップのためのレジデントFDの実施 ・教育アドバイザー雇用
27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次新カリキュラム実施:9月から「全科見学型臨床実習」を開始する。 ・5年次新カリキュラムの検討:次年度実施の参加型臨床実習実施に向けての準備を進める。 ・学生一人ひとりのログブックデータの蓄積を開始する。 ・外部評価を行う。
28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・5年次新カリキュラム実施:9月から参加型臨床実習を開始する。 ・教育アドバイザーは教育病院群の巡回を開始し、現場での学生指導が適切なものになるよう指導医を指導する。 ・教育現場の視察、教育関係者・学生へのインタビューなどから外部評価を受ける。 ・学生一人ひとりのログブックデータの蓄積と分析を行う。 ・取組成果の公表

新カリキュラムの骨子

基本的構築

前臨床実習
多彩な臨床現場
の体験



臨床系統講義
(Introduction to Clinical Medicine)

見学型実習
クルズス・チュートリアル
技能実習



参加型臨床実習
クリニカルクラークシップ

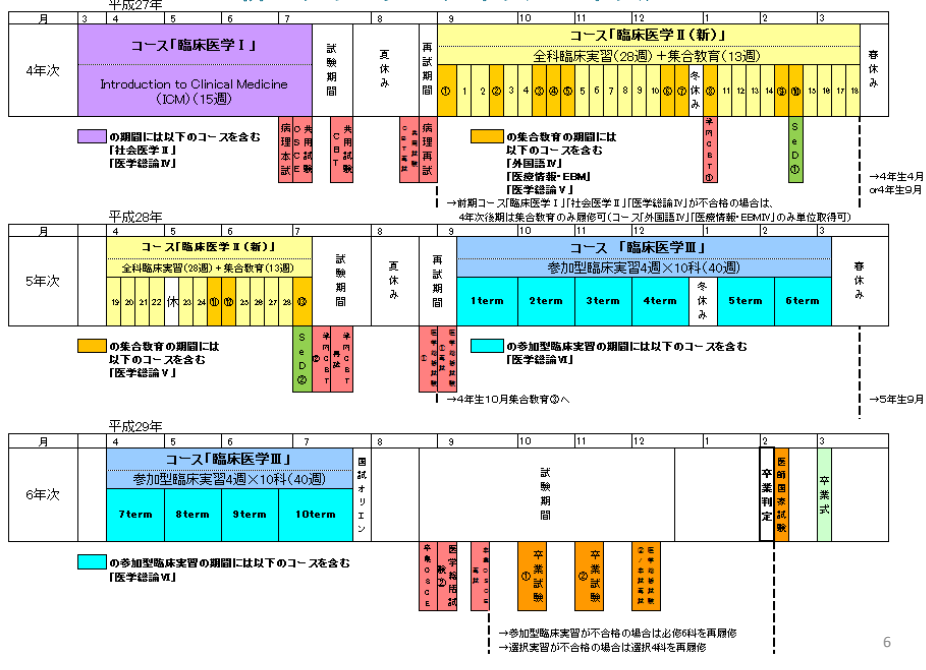
①「職場の中で学ぶ」力の養成
低学年(1~3年次)に学外実習施設における多職種の職場での患者接触プログラムを実施する。(6週)
福祉体験実習
重度心身障害児療育体験実習
地域子育て支援体験実習
在宅ケア実習

②文脈の中での学習
4~5年次に本院において全科見学型臨床実習(1週×28科)とキャンパスでの集合教育(2週×5回)との組み合わせで、診療の現場で求められる知識・技能・態度を「文脈の中での学習」として行う。概ね見学型臨床実習6週、集合教育2週でローテートする。(28週)

③「チーム医療への参画」による臨床能力養成
5~6年次の分院と教育病院群における参加型臨床実習(4週×10科)のなかで「チーム医療への参画」を通じて臨床能力を養う。(40週)

全実習期間: 計74週

新カリキュラム(4年次~6年次)



臨床実習の期間等

		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
臨床実習の週数①	申請時	学内実習	57	57	57	57	49	49
		学外実習	5	5	5	5	25	25
		その他	0	0	0	0	0	0
		計	62	62	62	62	74	74
	取組状況	学内実習	57	57	57	57	49	49
		学外実習	5	5	5	5	25	25
その他		0	0	0	0	0	0	
	計	62	62	62	62	74	74	
臨床実習の週数②	取組状況	診療参加型臨床実習	15	15	15	15	40	40
		見学型実習	47	47	47	47	34	35
		その他	0	0	0	0	0	0
		計	62	62	62	62	74	75
開始・終了時期	申請時	開始時期	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月
		終了時期	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月
	取組状況	開始時期	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月	1年次9月
		終了時期	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月	6年次7月
実習期間中に関わる(受け持つ)概ねの患者数	申請時	31~40人	31~40人	31~40人	31~40人	61~70人	61~70人	
	取組状況	31~40人	31~40人	31~40人	31~40人	61~70人	61~70人	
拡大する実習期間確保のための方策	申請時	平成26年度に低学年の3年次までに患者接触プログラムを終了し、27年度から4年次の臨床系統講義を縮小し、全科見学型臨床実習を9月から開始する。これにより従来より臨床実習を半年前倒しする。平成28年9月から5年次に40週間の参加型臨床実習を導入する。						
	取組状況	平成26年度に低学年の3年次までに患者接触プログラムを終了し、27年度から4年次の臨床系統講義を縮小し、模擬参加型全科臨床実習を9月から開始する。これにより従来より臨床実習を半年前倒しとなる。平成28年9月から5年次に40週間の参加型臨床実習を導入する。						

東京慈恵会医科大学附属病院



葛飾医療センター(東京都葛飾区) 356床



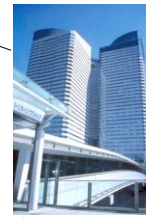
柏病院(千葉県柏市) 624床



第三病院(東京都狛江市) 581床



本院(東京都港区) 1,075床



晴海トリートメントクリニック
(東京都中央区トリートメントスクエアW館3階)

附属病院

本学の附属病院、診療所では、建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づいて、患者さんの立場にたった医療の実践と最善で最適の医療の提供を目指しております。病気の治療のみにとられず、患者さんの心の痛みを理解できる医療人を育成しています。

附属病院は本院、青戸病院、第三病院、柏病院の4つの病院と晴海の診療所があり、各病院で相互に機能的な医療の連携を行っています。4つの附属病院を合わせると、ベットは約2,600床を有し、一日の外来患者数は約7,500名で、国内最大規模の大学附属病院です。

新カリキュラムの検討について

1. 講義時間の削減に伴う内容の検討
 臨床系統講義時間数は、従来、4年次1年間に渡り
 398コマ(臨床医学363コマ、社会医学35コマ)
 平成27年度からの新カリキュラムでは4年次4月～7月に
 203コマ(臨床医学182コマ、社会医学21コマ)とし、
 従来より、195コマを減少(1コマは70分講義)。
2. 共用試験の検討
 共用試験OSCE、CBT(4年次7月)の決定
3. 集合教育
 ベッドサイド教育と、これに並行する演習・講義の設定
 臨床推論・プレゼンテーションの能力養成
 ⇒ 症候から病態へ、ケースカンファレンス
 (別紙資料1)
4. 全科臨床実習について(別紙資料2)

9

英国キングス大学との連携

1. 6年生選択実習において学生3名を派遣(一人1か月)
 (従来から継続)
2. キングス大学のOSCE視察
 ☆キングス大学は2年次～5年次にOSCEが実施される。
 5年次はFinal OSCEと呼ばれる
 Phase 3: 3年次医学生(医学部4年生に該当)のOSCE
 臨床実習指導医1名
 Phase 4: 4年次医学生(医学部5年生に該当)のOSCE
 臨床実習指導医1名、教育センター教員1名

10

ログブックの作成、臨床実習学習記録のDB化

- 臨床実習教育委員会において、英国キングス大学を参考に全診療科のログブックを作成。
各診療科指導医により卒前臨床実習での「アウトカム」を検討し、学生が経験すべき内容、獲得すべき能力をリストアップし、それを「ログブック」へ落とし込みを行った。
- 臨床実習学習記録について
実習目標、各診療科別ログブック、評価表、
目標設定とフィードバックシート



平成26年度 5年生臨床実習トライアルを実施
(別紙資料3)

11

臨床実習ログブック例

糖尿病・代謝・内分泌内科例

知識・技能評価											
00-0000	04-551-1	①指導医にチェック・サインをもらう②スキャン③ファイリング									
診療科 糖尿病・代謝・内分泌内科		月	日	～	月	日					
番号	氏名										
1. 知識について											
1	糖尿病の分類と診断基準を述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
2	糖尿病の食事療法について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
3	糖尿病の薬物療法を病態ごとに述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
4	インスリンの種類と作用機序について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
5	糖尿病急性合併症の成原因と治療について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
6	糖尿病慢性合併症の成原因と治療について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
7	脂質異常症の分類と治療について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
8	ホルモンの生理作用を理解し、病態と結び付けることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
9	内分泌学的負荷試験の意義と解釈について述べることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
10	内分泌疾患に特有の身体所見を指摘することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
11	画像診断の基本的事項について説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
12	臨床検査所見から病態を説明することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		

知識・技能評価											
00-0000	04-551-2										
2. 技能（内科共通）について											
1	適切に病歴聴取ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
2	必要な身体診察ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
3	患者と適切なコミュニケーションができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
4	収集した情報から問題点、鑑別診断を列挙できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
5	必要な検査、治療計画を立案できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
6	得られた情報をPDR方式でまとめることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
3. 技能（各科）について											
1	糖尿病合併症に特有の身体所見を指摘することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
2	指導医の監督下で糖尿病患者に対し療養指導を行うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		
3	インスリン注射・自己血糖測定手技のデモンストレーションを行うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	月	日	指導医	評価		

12

ログブック、学習記録DB化の成果

・ログブックの効果

臨床実習でのログブックを作成・活用することにより、臨床実習指導医は「臨床実習」という診療科横断的な学習プロセスを実感する。学生においてはログブックによって自分が不足している経験や診療能力を自覚するようになる。これによって学生の自己主導型学習を促進する。

・学習記録のDBの効果

学生が提出する学習記録をデータベース化することにより、大学が学生の学習を管理することができる。医学教育プログラムの自己点検評価、外部評価、そして医学教育認証への準備を円滑に進めることができる。

13

臨床実習FDの実施

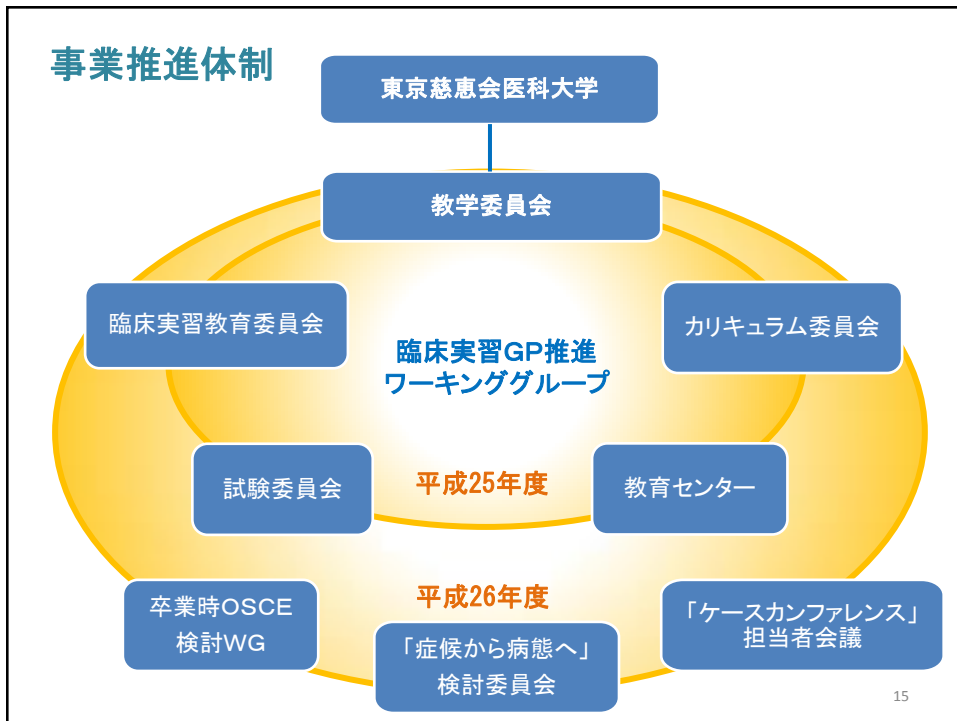
1) クリニカル・クラークシップ指導医養成FDを実施

従来から実施しているが、従来は主に本院の指導医が対象でした。本事業により発展させ、附属4病院指導医が参加した。

2) 屋根瓦方式教育スキルアップのためのレジデントFDを実施

後期研修医(レジデント)1年目に対して臨床実習FDを行った。指導医モチベーションが上がり、指導スキルの向上が見込まれ、学生がより質の高い臨床実習を行なえると期待できる。

14



今後の課題

- ①平成28年度カリキュラムの詳細検討
- ②クリニカルクラークシップの検討
- ③卒業時OSCEの検討
- ④教育アドバイザーの雇用
(臨床実習改善の担当教員の配置)
- ⑤学外の教育病院との連携
大学関連病院への協力を要請

など